



2021年4月23日

各位

会社名 株式会社中村超硬
代表者名 代表取締役社長 井上 誠
(コード：6166 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理本部長 藤井 秀亮
(TEL. 072-274-1072)

2021年3月期業績予想の修正及び 「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に向けた進捗状況のお知らせ

最近の状況を踏まえ、2021年2月12日に開示いたしました2021年3月期の業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、2021年3月期第3四半期決算まで記載しておりました「継続企業の前提に関する注記」（以下、「GC注記」といいます。）の記載について、2021年3月期本決算において解消できる見通しであることを併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の再修正について

2021年3月期連結業績予想数値の修正(2020年4月1日～2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	3,700	60	60	△160	△15.97
今回修正予想 (B)	3,806	167	181	7	0.75
増減額 (B - A)	106	107	121	167	
増減率 (%)	2.9	179.3	203.3	—	
(ご参考) 前期実績 (2020年3月期)	2,797	△578	△716	△600	△73.16

2. 再修正の理由

売上高につきましては、前回修正時に公表した数値を若干上回り、3,806百万円となる見込みであり、損益面については、増収による影響に加え、製造現場において製造コストの低減及び経費削減等を徹底したことや、江蘇三超社へのダイヤモンドワイヤ生産設備等の譲渡案件（以下、「南京PJ」といいます。）において計画していた費用が来期にずれ込んだこと等により、前回公表した金額を上回り、営業利益は167百万円、経常利益は181百万円、親会社株主に帰属する当期純利益については7百万円となる見通しであります。

3. 「継続企業の前提に関する注記」の記載解消に向けた進捗状況について

当社グループは、2019年3月期に債務超過となりましたが、太陽光発電向けダイヤモンドワイヤ生産事業から撤退するとともに、主力工場であった和泉工場を売却する等の構造改革の実施ならびに新株予約権の発行による資金調達及び資本増強に取り組んだ結果、2020年3月期末において、債務超過は解消いたしました。しかしながら、同期末時点において、当社グループの有利子負債は4,590百万円と手元流動性に比し高水準にあることに加え、構造改革の一環として取り組んだ南京PJについては、新型コロナウイルスの影響により未完了の状態にありました。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められたため、GC注記を記載しておりました。

南京PJについては、江蘇三超社と新たな合意に向け協議を継続している状況にあり、現時点において未完了の状態であるものの、2021年3月期の業績において、売上高は前期を大きく上回るとともに損益面についても黒字化を実現するなど、構造改革の成果が表れていることに加え、2021年3月期末時点の有利子負債は3,133百万円まで減少し、資金面における当面の不安も解消されている状況にあることから、2021年3月期末において、GC注記の記載を解消できる状況に至ったと考えております。

今後につきましては、既存事業を発展させていくとともに、これまで開発に取り組んできた新規事業についても本格的な事業化を目指し、将来的な成長を目指してまいります。

※上記の業績予想等は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により上記予想数値と異なる可能性があります。

以 上